

提言の内容について（4 月会議のまとめ）

協議テーマ：こどもをとりまく社会教育のあり方について

—学ぶ喜びと居場所のために—

協議事項：提言の骨子案・構成案について

令和 7 年 4 月の会議では提言の骨子案・構成案をまとめるにあたって、中・小項目の案出しを行った。

1. 協議の経過

- 総論部分（各グループの共通項）の中・小項目について意見交換
- 総論ありきで話を進めてしまうと、せっかくグループ分けを行い、それぞれで調査した結果が複雑化し、議論に混乱を招くとの意見が上がる
- まず各グループで各論部分の中・小項目を決めてから、そのあとに共通項を探し出し、総論の中・小項目を決める方針になった。

⇒各グループで各論部分の中・小項目案について話し合い。

2. 前回会議で決定した事項

- ★中項目は「(1) 居場所」「(2) キーパーソン（人とのつながり）」「(3) 行政の支援」で統一。

地域グループ

(1) 居場所

① こどもの居場所

- ・こどもたちがいろんな経験ができる場所
- ・こどもたちが安全に活動できる環境づくり
- ・異年齢の交流の場所

② 親の居場所

- ・こどもの支援だけでなく、親への支援も必要

③ 行きたいところを自分で選択できる居場所

- ・身近に行ける場所：こどもの個性が出しやすい
- ・遠出する居場所：身近な場所に行きにくいこどももいる

長期休暇中などに、普段できない体験ができる居場所

(2) キーパーソン（人とのつながり）

① 場を提供する人と地域とのつながり

(3) 行政の支援

① お金

- ・居場所づくりの経済的支援

② 場所

- ・活動場所を確保するために行政の協力が必要

③ 人

- ・人材育成

外国グループ

(1) 居場所

① 外国にルーツを持つ人にとって、居場所とは何か

- ・居場所という言葉遣いは日本特有なのではないか
- ・外国にルーツを持つ人は、居場所というとらえ方を理解することに時間がかかる
- ・外国にルーツを持つ人の居場所は、その多様性に寄り添ったものを意識する必要がある

② 学校教育の居場所

- ・外国にルーツを持つ子どもにとって、学校は重要な居場所の一つ
- ・外国にルーツを持つ子どもの不登校、引きこもりが増えてきている

③ 社会教育の居場所

- ・義務教育の代わりや、学校教育になじめるようにするための居場所は市民が運営する居場所が担っている

(2) キーパーソン（人とのつながり）

① 地域の人の事例

- ・地域の人がつくった居場所が大きな役割を果たしている
- ・居場所を作るキーパーソンの活動を継続させるにあたって、後継者になる人をどう育てていくか
- ・キーパーソンの後継者探しや人材確保等の活動に対しどのような支援ができるのか

② 外国にルーツを持つ子どもたちが、将来どんな影響をもたらすか

- ・外国にルーツを持つ子ども向けの居場所で活動した子どもたちが、将来日本または育った地域に戻ってきたとき、どういう効果が期待されるか（時代を超えて地域に関わっていく事例）

(3) 行政の支援

① こどもへの周知方法（特に義務教育後）

- ・学校を通して情報提供をすることが難しい教育段階のこどもたちに、居場所の選択肢を知らせる
- ・地域のキーパーソンも、義務教育終了後のこどもたちへの周知には苦勞している
- ・居場所を選ぶ・見極めることができるよう情報提供を行う

② 居場所づくりの機会醸成・場の提供

- ・外国にルーツを持つこどもにとって、自分たちだけで居場所づくりをすることは難しい
- ・外国にルーツを持つこどもたちが、居場所づくりの経験ができるよう必要な支援を行う

(4) 小括

- ・居場所というよりも、そこに関わる人や、そこを利用する人がいる関係（人とのつながり）の中で学ぶ喜びが生まれているのではないか

3. 未定事項

△小項目の確定

△総論部分の小項目

△執筆分担